

歩行者天国・オープンカフェに関する天神地区社会実験

○九州大学大学院 学生会員 牟田幸一郎
九州大学大学院 正会員 外井 哲志
九州大学大学院 正会員 梶田 佳孝

1. はじめに

今回の社会実験は、福岡市都心の将来像に向けた課題である、「歩いて楽しい都心づくり」を官民共同で推進する仕組みの構築を目的とする。このため、まず天神地区の一部の道路を歩行者専用化してオープンカフェ等を導入し、歩行空間を魅力あるものにする。次に放置自転車を撤去するとともに、駐輪施設の利用料金を抑えて路上駐輪を減少させる。そして自動車での来街者を天神地区周辺のフリンジパーキングへ導き、そこからバスで都心まで輸送する。これらの実験以外にもさまざまなイベントを実施し、憩いと賑わいに満ちた都心としての天神の活性化を試みた。本稿では、歩行者天国における来街者の行動と実験内容に対する評価について報告する。

2. 社会実験の概要

歩行者専用化した一部道路(図-1、写真-1)や公園空地に休憩施設(オープンカフェ、ベンチ等)を設置し、自転車の走行自粛を呼びかけた。実施期間は平成 16 年 11 月 13 日(土)と 14 日(日)の 12:00～22:00 であるが、11 月 8 日～14 日の間は対象道路での不法専用物等撤去を行った。

3. 調査内容

実験地区内と大名地区の 8 エリアで、15 才以上の男女を対象に直接面接聴取法により、交通手段、来街目的、立ち寄り回数、歩行者天国やオープンカフェの利用と評価などを調査した。有効回収数は 13 日 490 票、14 日 450 票であった。

性別は男性 45.4%、女性 54.6%、年齢は 20 歳代が 38.9%と突出して多い。居住地は福岡市内が 61.3%、県内 25%、県外 13.4%と市域外からの来街者も多い。

天神到着時の最終交通手段は(図-2)、バス(高速バスを含む)、電車、地下鉄が合わせて 68%程度で公共交通手段の利用率が高いが、自家用車の利用者が 15%程度、また高速バス利用者も 4%程度存在する。実験日と普段の休日とで交通手段に大きな変化はないが、実験日には徒歩利用が 5.5%から 9.1%に増加し、自転車

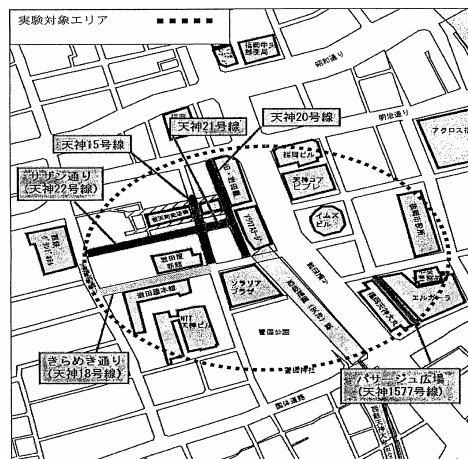


図-1 実験対象地区



写真-1 実験風景(サザン通りのオープンカフェ)

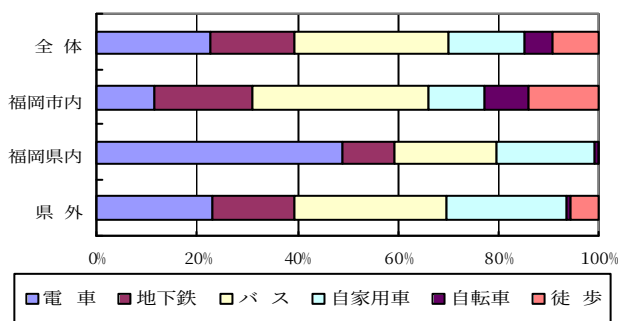


図-2 居住地別に見た最終交通手段

は 8.3%から 5.5%に減少している。来街のための平均交通費用は全体平均で 504.8 円、市内 201.4 円、市外 514.5 円、県外 1883.7 円であった。天神までの平均所要時間は 39.8 分である。

来街目的は買物が 44.9%と多いが、食事・喫茶 18%、ウィンドウショッピング 10.4%、イベント参加・見学

表-1 滞在時間と立寄り店舗数

			滞在時間(分)	立寄店舗数(店)
歩行者天国通行者	カフェ利用者 55人	実施日	245.5	3.77
		普段	247.6	3.44
	非利用者 768人	実施日	250.6	3.16
		普段	233.7	3.27
	全体	実施日	250.2	3.20
		普段	234.7	3.28
歩行者天国非通行者 117人		実施日	271.5	2.07
		普段	233.7	2.71
来街者全体 940人		実施日	252.9	3.06
		普段	234.5	3.21

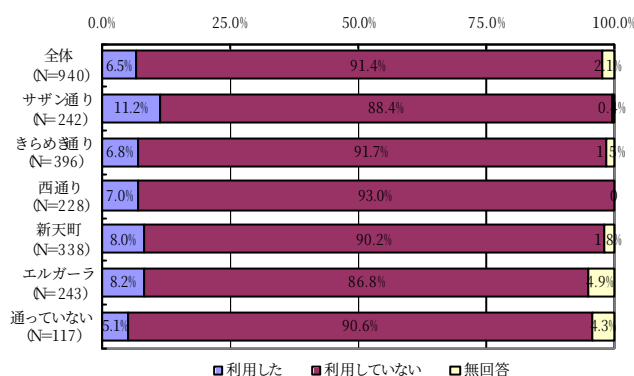


図-4 通行した通り別に見たオープンカフェの利用

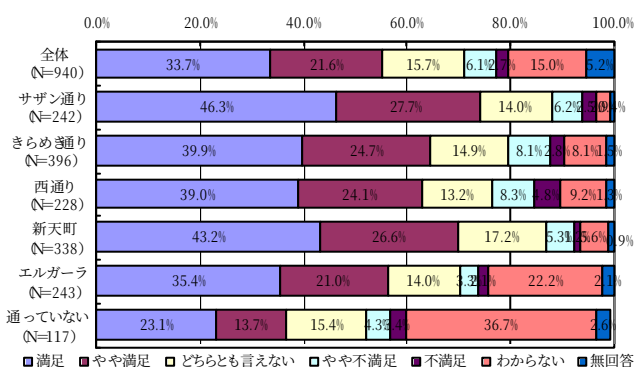


図-5 通り別に見た歩行者天国の歩き易さ

が10.3%を占めている。

表-1では、調査対象者を歩行者天国通行者と非通行者にわけ、通行者をさらにカフェ利用者と非利用者に分けて、天神地区滞在時間と立寄り店舗数の平均を求めた。まず、天神地区の平均滞在時間は4時間強で、立寄り店舗数は3程度であることが分かる。歩行者天国通行者と非通行者の別では、普段の滞在時間は変わらないが、立寄り店舗数には一人当たり0.58の差がある。カフェ利用者と非利用者の間では普段の滞在時間、立寄り店舗数ともに前者の値が大きい。

実験当日の滞在時間の全平均は約253分(4時間13分)で、普段の休日よりも18分程度長い。立寄り店舗数の平均は一人当たり3.06であり、普段の休日の3.21より少ない結果となった。しかし、カフェ利用者

の天神地区滞在時間は、カフェ利用者以外のそれよりも13～14分程度長い。

実験日のカフェ利用者の天神地区滞在時間は普段より2分ほど短い。立寄り店舗数は0.33増加している。一方、カフェ非利用者の滞在時間は7分ほど延び、立寄り店舗数は0.1減少している。さらに、歩行者天国非通行者の天神地区滞在時間は28分延び、立寄り店舗数は0.64減少しており、その内容についてより深い分析が必要である。

オープンカフェの利用者は全体で6.5%であるが、通り別に見ると、サザン通りを通行した人の利用率が最も高く11.2%に達している。なお、カフェの滞在時間の平均は37.0分であった。

歩行者天国の歩きやすさについては、「満足」が37.7%、「やや満足」が21.6%をあわせて59.3%が満足と答えている。サザン通り、新天町で「満足」と答えた割合が他の通りに比べて高い。路上に椅子やテーブルを置くことについて、61.2%の人が良かったと答えている。特に椅子やテーブルを多く配置したサザン通りでは、通行者の74.8%が良かったと答えており、椅子・テーブルが通行の障害であるとは感じていない。

歩行者天国社会実験の全体的な評価については、61.2%の人が「良かった」と答えている。調査場所別ではサザン通り付近、年齢別には60歳代、50歳代、30歳代、職業別では主婦層の評価が相対的に高い。

今後の歩行者天国の実施については、71%の人が希望しており、特に高齢者層、主婦層に希望が高い。また、今後の実施時期は4月、5月、12月である。実施日は、73.3%が休日・祝日のみを希望している。

4. まとめ

来街者は女性が多く、来街交通手段は公共交通が多い。また、普段の休日に比べて徒歩が増加し自転車が減少した。来街者の平均交通費用は約500円、所要時間は約40分であった。平均滞在時間は4時間を越えるが、今回は普段より18分程度多かった。立寄り店舗数は平均的には3店舗程度である。調査対象者のうちでカフェを利用した人の立寄り店舗数は増えたが、全体では普段よりわずかに減少している。歩行者天国の歩きやすさについては約6割が「満足」と答え、歩行者天国化してカフェを出店した通りの評価は高く、社会実験の全体的な歩床としては「よかった」とする人が多かった。